



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2021/06/12 公開
■ ユダヤ入門シリーズ ■

#27 「中世ユダヤ人隔離政策の象徴『ゲットー』とは何か？」

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日はユダヤ入門シリーズ、遂に第27弾！パチパチパチ！この調子だったら第50弾くらい突破するんじゃないかなと思います。またお付き合い願えたらと思っています。

皆さんは“ユダヤ人”と聞いた時、どんなイメージをお持ちになるでしょう？ある方は、ロスチャイルドに代表されるような億万長者のイメージですよ。マネーのユダヤ人。ある方は、アインシュタインのような天才科学者・天才民族。そんなイメージ。大体マネーか天才かどちらか、という方が多いんじゃないかと思います。

ユダヤ人が金融やアカデミック、サイエンスやアートの部分においても、大活躍するのはフランス革命以降なんですね。それ以前は活躍することができませんでした。なぜなら、ユダヤ人ばかりを押し込めておく隔離地区の中に閉じ込められていたからです。この隔離地区をゲットーと言います。ゲットー、1番本格的なものが造られたのはイタリアです。1516年、宗教改革の1年前に、イタリアのベニスに本格的な高い壁で囲まれたゲットーが造られました。

ベニスには大砲の鋳造所がありました。鋳造は、鋳型の中に溶けた鉄を流しこんで、冷やして固めて大砲を造るんです。鋳造所のことをイタリア語でゲット。鉄工所みたいな所なので粉塵があるし、生活するという点においては環境はあまりよろしくない。この鋳造所のすぐ隣の地区に壁を造って、そこにユダヤ人を押し込めたんですね。このゲットとユダヤ人が隔離された地区というのが結び付いて、ユダヤ人隔離地区をゲットーと言うようになったんです。そうして、ローマ教皇が自分の領土/所有領にもゲットーを造るようになって、やがてヨーロッパ全土にゲットー、ゲットー、○○ゲットーというのがたくさんできました。

ゲットーの中にはユダヤ共同体に必要な職業や施設やシステムが全部揃っていません。シナゴグだけでなく、ヘデルという寺子屋式の塾みたいな 幼い時から学ぶ機関、律法/戒律に基いて屠殺する人、割礼を施す人、ユダヤ教の葬儀を行う人、宗教裁判所みたいなものもありました。江戸時代に長崎出島があって、そこに一步入ったら、そこにはミニオランダ/ヨーロッパがあったんです。それと同じように、ゲットーに一步入ったら、そこはユダヤの世界。ユダヤ人は誰に気兼ねすることなく生活できたのです。

しかし、ゲットーは拡張しません。人口が増えて来る。でも広さは一緒。それでゲットーの建物はどんどん高く高くなって高層アパート。人口が密集して衛生も良くない。環境も良くない。就く職業は限られている。そこに住んでいる人たちはほとんどが貧しい人たちでした。大きな壁に囲まれているゲットーには出入口が1箇所だけ。そこには門番がいます。その門番はキリスト教徒がやると決まっている。キリスト教徒の門番の給料はユダヤ人が払うんです。

外の世界に行って用事をしなければならない場合、「私はユダヤ人です」と一目瞭然で分かる黄色のワッペンみたいな物を必ず貼り付けて、夜までに必ず戻らなければならない。夜中は全部鍵が閉められている。

そしてキリスト教の祝日には、ユダヤ人の姿を見ることがないように、一步も外の世界に出ないように閉じ込めておく。そういう状態なので、ユダヤ人たちは一般社会の中で活躍できないんですね。

ところが、このゲットーがいよいよ破壊されて、ユダヤ人が解放される時がやって来たんですね。

それが 1789 年、フランス革命だったんです。自由・博愛・平等のフランス革命。

“非難 (17) する声 波及 (89) する。1789 年フランス革命”。これで覚えたらいいんじゃないですか？

フランス革命は非常に劇薬の事件だったので、マイナス部分もたくさんありましたが、ユダヤ人にとってはプラスです。なにしろ国を失って 1700 年。初めて一般国民になることができたんです。フランス革命によってフランスだけではなく、やがてヨーロッパ中のユダヤ人たちが、ヨーロッパ中のゲットーから解放されるようになり、そして一般国民になることができた。

なので、一般国民に保障されている権利は、そのままユダヤ人も受け取ることができた。

一般国民が就くことのできる仕事にユダヤ人も就けるようになった。今まで多くの制限があったけど、ハンディキャップが取り去られて、一斉に同じようなチャンスに恵まれるようになった。

そこからユダヤ人たちの快進撃が始まっていくのです。近代以降、ユダヤ人の活躍には目を見張るものがあるわけですね。

いよいよ近代、イスラエル建国に向けて歴史がどんどん進んで行きますね。

次回から、現代イスラエル共和国建国に向けてお話を展開していきたいと思いますので、またお付き合いください。

また『ごうちゃんねる』でお目にかかりたいと思います。

それまで皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！